

右田センター副部長よりご挨拶

つくば予防医学研究センターは、医療に高度かつ先進的な研究成果を応用し、また臨床現場のニーズに寄り添った研究の展開を行うことも期待された組織です。現在、当センターのテーマのひとつとして遺伝情報を生かした医療展開を目指す研究、体制整備を行なっております。私は、臨床遺伝分野を背景にした医師として、近年臨床現場でも利用が広がった遺伝学的解析を健康維持に活かすことを目指しております。ヒトの体の設計図である遺伝情報を解析すると、疾患の早期診断につながり、診断した疾患や遺伝学的特性を活かした高度な医療対応が可能になりつつあります。医学、遺伝学、情報科学の研究者・専門家とともに遺伝情報を活用し、サーベイランスや治療など、健康管理や疾患治療へ活用の拡充を目指しております。これからも遺伝情報から医学的、科学的なコンセンサスのある根拠に基づいた解釈を行い、医療として届けることができるように利用者様、当センターのスタッフ、筑波大学の皆様とともに貢献して参ります。

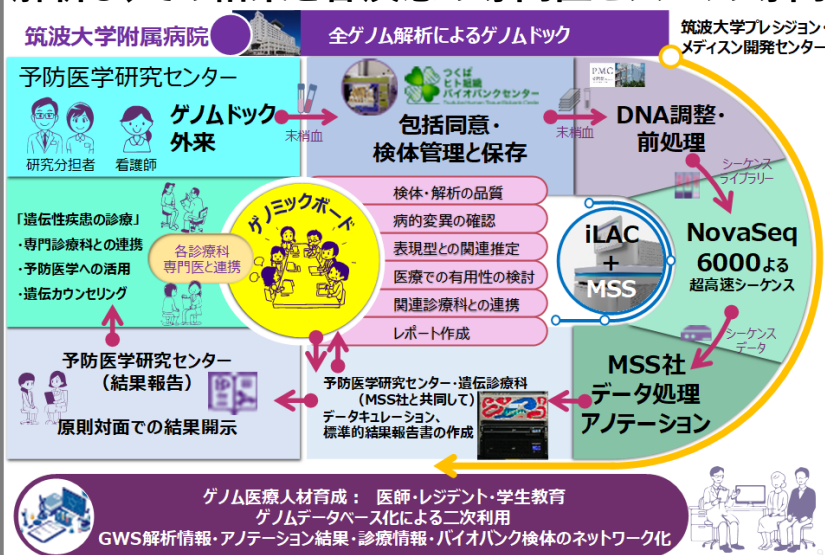


つくば予防医学研究センター
副部長 右田 王介

【ゲノムドック】

健康管理や疾患の治療に、個人が生まれながらに持つ体質あるいは遺伝情報を活用することが期待できる時代となってきました。ゲノムドックは、採血からゲノム情報の将来への医療活用を目指した解析を実施する一方、すでに健康上の管理に役立つことが判明している遺伝子の変化を高性能な機器を用いて解析し、その結果を各疾患の専門医とゲノムの専門家とで解釈をつけてレポート

を作成してご説明いたします。科学的な根拠に基づいた遺伝情報の解釈とその対策を明示することで、将来の疾患や遺伝子特性に対する対処法を知ることが期待されます。



中嶋センター副部長就任のご挨拶

今年4月から、センター副部長を務めさせて頂くことになりました、看護師長の中嶋です。

健康の保持・増進が図れるようアドバイスをさせて頂くとともに、当センターをご利用頂いた皆様にご満足して頂けるよう心がけて参ります。



つくば予防医学研究センター
副部長 中嶋 真弓

がんに関する先進的なドックのご紹介

日本人の2人に1人ががんになる時代であり、がんは日本人の死亡原因の第1位です。当センターのがん検診では、PET-CT、大腸がん精密、肺がん、乳がん、子宮頸がん+卵巣がん、前立腺がんの7つのオプションを設けておりますが、他のドック施設にはないユニークなものとして、先のゲノムドックやがんプレジジョンドックを行っています。



【がんプレジジョンドック】

全がん患者の5-10%程度には、発がんへの遺伝学的因子の影響が強い遺伝性腫瘍症候群によると言われています。特に平成30年から乳がん患者などへの遺伝子検査が保険収載され、さらに令和2年には適応拡大が認められ、検査の実施が飛躍的に増加しました。遺伝性腫瘍は、その症候群毎に一般よりも発症が多くなる臓器が判明しており、国内外の学会あるいは学術団体からがんの早期発見を目指したサーベイランスが推奨されています。しかし、遺伝的保因を有する若い未発症者には公的ながん検診も使えずに不十分との指摘がありました。本ドックでは未発症者を対象に認定遺伝カウンセラー及び臨床遺伝専門医の協力によって、利用者と検診スケジュールを個人のニーズにあわせて作成し、発症リスクの高いがん種に合わせたがん検診を提供するものであり、がんの二次予防に資する取り組みとなることを目指しています。

受診日について

令和4年度より、火曜日も人間ドックのコースを開設させていただき、月曜日から金曜日の週5日、受診いただけるようになりました。より多くの方にご利用いただき、皆さんの健康増進に務めております。

受診の予約やお問合せ等は下記のWEBまたはお電話などで承ります。

予約受付・お問合せ

TEL：029-853-4205（受付時間：平日9時～16時まで）

WEBまたはセンターへ直接来院のお申込みも可能です。

<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/yobou/>

